

岩手県 グループホームほほえみの家 自己評価票(B棟)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>昨年度に職員間で話し合い決めた目標をもとに地域で暮らすことの大切さについて職員全員で共通認識を持っている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員間で決めた理念・目標はホーム内の目のつく場所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。新職員採用の際にはこれを説明し理解してもらえるよう心掛けている。しかし問題が発生した時の考え方が職員間で様々あり、統一されたケアには</p>	<p>○</p> <p>現在の理念、目標は細かく文章化されているが、内容の理解が十分ではない。そのため、今後は目標を簡略化し、わかりやすく他者には伝えやすいものにしていきたいと考える。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に職員理念を掲示しており、広報誌にも掲載している。運営推進会議の場でも説明し、理解が深まるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所や民家が少なく日常の交流は難しいが、頻繁に外出する入居者の対応をする中で、近所の人々に関わる機会が増えてきた。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホーム行事を利用して、地域の方に訪問していただく機会は増えたが、自治会、地域活動への積極的な参加はほとんどない。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が研修会に参加する機会は多く持つようにしている。地域住民等の見学は常に受け入れており、実習生の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義は全職員理解できている。自己評価する中で、改善点については確認し合っている。運営推進会議の場で、改善のための意見を頂いている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では外部評価の結果を報告し委員の皆さんから色々な意見をもらい、取り組めるものから順次取り組んでいる。会議では検討項目や2ヶ月間の取り組み状況を報告、意見をいただき職員会議等で検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録や広報誌を届けに行った際に近況報告は行っている。村の担当者がホームに来ることは少ないが、分からないことや困ったことがあれば電話で相談にのってもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域の研修会に参加し学ぶ機会があるが、ホーム内での勉強会は行っていない。他職員の理解は薄いので、今後理解を深めていく必要がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施していないが今後研修会などに参加して学んで生きたいと思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり時間をかけて説明しこまめに不明な点はないか聞いている。またおこりうるリスク(重度化・入院)についても家族が分かりやすい説明を心がけている。退所時には速やかな退所ができるよう心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、不満を聞く機会はある意見、不満を言いやすい関係づくりはできており、職員会議の場でそれらを全職員が共有することもできている。介護相談員を受け入れ相談員を通じて外部に伝える機軸を作っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度家族向けの広報誌を発行し、暮らしぶりを伝えている。職員の移動についても掲載している。面会の際には健康状態や生活の様子を伝えているが、面会の少ない家族に対しての報告は十分でない。体調不良の際はすぐに電話等で伝えるようにしている。金銭管理については、預かり金の収支一覧表を定期的に定時している。	○ 面会の少ない家族に関しては、記録の中から抜粋してホームの暮らしぶりを手紙で伝えるとともに、面会に来て頂きたいという旨も伝えていく方法を検討していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は家族会というものは行っていないが、行事などを通して家族と話をする機会を多く持つよう心がけている。	○ 今年はまだ家族アンケートを行っていないが、実施する予定である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催して意見を聞く機会を設けている。会議内容で検討課題がある場合は、運営者・管理者と相談しながら職員の要望・意見の実現に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の皆さんがゆっくりと穏やかに生活できるよう職員の勤務時間を合わせている。また急な勤務変更に対応できるよう心がけている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との信頼関係が重要と考え基本的には職員を固定化している。異動が必要な場合は管理者と十分協議の上行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と管理者が十分協議の上、職員の経験や能力に応じた研修に参加させている。また協会の定例会には興味がある職員に積極的参加してもらったり、順番に参加してもらうようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村の地域ケア会議や協会の定例会に参加させ、ネットワークづくりを進めている。また協会で行っている交換研修にも参加させ、サービス向上の取り組みを行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス解消のため飲み会など行っており、その中で職員から出た意見は管理者と相談の上、対処している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得について支援を行い、勤務成績によっては正規職員へ昇格させる人事を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の調査でご本人と面談する機会を持ち、状態の把握に努めている。また本人や家族が不安に感じている場合は、何度かホームに来てお茶飲みをしてもらったり、一週間程度通ってもらったこともある。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談に来られたときは家族の思いや悩みを時間をかけて聞くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期の入所を望んでも満床の為入所できない時は、他のホームを紹介したりケアマネと連携して他のサービス利用の可能性について検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急を要する場合以外は、あらかじめホームの職員や他入居者などと触れ合う機会を持ち、新しい環境や雰囲気慣れていただくように事前の訪問をいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で一人ひとりが楽しめる場面や能力を発揮出来る場面を見つけ、本人に合った楽しみごとや役割を負担にならない程度に行ってもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの実施や他科受診の際、日常生活において家族と職員の思いを話し合える関係にあり、本人を支えるために協力し合っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を持っていただいたり、行事に参加をしていただいたりしながら、より良い関係の継続に努めている。また、家族が面会に来やすいような環境づくりを心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブで参加者の家の近所や思い出の場所をまわるなど継続的に行く機会を作っている。	○	知人の方が面会に来たことがあるが、こちらから知人のところに行くということはない。今後は個別対応などで訪問する機会を作って行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で集まって職員が用意した歌詞カードを使って歌ったり、談話したりしている。又、輪に入っていない入居者にも声を掛け参加できるように機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、ホームから退所する場合は入院するか、他施設へ入所される方が多く、本人や家族との継続的な関係を保つことは難しいのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通じて入居者の希望の把握に努めている。自ら訴えられない利用者は顔色や表情で汲み取っている。五感を働かせて思いを感じるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する際に、ご家族から生活歴や本人の性格などを聞き取った物を、本人用のファイルに保存している。職員はいつでも見ることの出来るようにし把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの生活リズムを大切に、本人の出来ることを支援しながら入居者一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえ、計画作成担当者が原案を立案し、他の職員が意見を出し合い、最終調整の後介護計画として入居者とご家族に確認同意を頂いている。		
37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化、アセスメントの結果を踏まえ、ケアプランの担当者が現状に応じて介護計画を見直している。利用者、ご家族と話し合い希望を取り入れている。	○	現在週末会議でセンター方式の内容を話し合っているが、実施出来ない事が多いため、出来るだけ実施するように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の状態を記録に残し、全職員がいつでも確認できるようにしている。又、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。勤務開始前に申し送りをし、状態を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により医師の往診の他、看護師が訪問する機会が増えた。それにより日常生活の健康管理が強化され、症状に対して早い時期での発見・対応ができ入院のリスクが軽減されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に参加してもらっている。他にも避難訓練の際には消防の方に来ていただいたり、地域の方にボランティアを依頼したりと地域資源との協力を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議のほか、地域ケア会議にも参加し情報交換を行っている。また、本人の希望や体調に合わせて、訪問理美容サービスや訪問歯科を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域ケア会議に地域包括支援センター職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して利用が出来るようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は同一法人内の医師が往診に来るため入居者全員の主治医となっているが、専門科目以外の病気については他科受診などで対応している。受診の際、基本的に家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している同一法人の医師が主治医となっており、必要な指示・助言をしてくれている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣の敷地に同一法人のクリニックがあり日常の健康管理や体調不良時の対応を行っている。また医療連携により日中の訪問や夜間急変時の相談などにも対応してもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院の見込みがある場合は家族や病院関係者と話し合い、退院に向けて調整を行っている。また、退院した後に本人や家族が再入所を希望した場合は、部屋が空くまで同法人の施設に入居してもらう等の対応を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所するときに重度化した場合の方向性について家族に意思確認をしている他、重度化に伴う意思確認書を作成し説明と同意をもらっている。また入居者の健康状態に変化があった場合は、その都度家族の意思確認を行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した入居者が多く、体調不良などの場合は医師や看護師と連携を図るようになってきている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことになった場合、これまでの生活環境やホームでの生活の様子を細かく伝達するよう心がけ継続した対応が行われるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録などに個人名の記載が必要な場合はイニシャルで表記するなどプライバシーの保護に工夫をしている。トイレ誘導の時、他者に聞こえないように耳元で声掛けをしている。	○ 居室のドアを開けた時に部屋の中がまる見えになるので、暖簾などを使用し、プライバシーの保護に努める必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせた声掛けをし、自己決定出来るように支援している。(週2回の夕食メニュー作り、ティータイム時にお好みの飲み物を聞く)意思表示が困難な方は表情や言動を読み取り支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、その日の入居者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援している。1棟のみの支援が難しい場合は、他の棟の職員が応援、協力するなど、2ユニットのメリットを活かして入居者本位の対応に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容師に来て頂き、本人の希望に沿いながらカットしてもらっている。また、毎朝身だしなみを整えている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の食べたい物や、旬な物を取り入れ決めている。買い物や調理、盛り付け、片付けなども職員と一緒にいき、楽しみながら食事を行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本にが買いたい物があるときに、職員が同行し好きな物を購入している。一人ひとりの好みを把握しており、食事のメニューの取り入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導している。下着に尿取りパットをつけている人もいるが、なるべく自然な排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のリズムに合わせて、入りたい時に入れるように努めている。介助についても入居者の意向に沿った方法で対応している。又、事故がないように、入居者によっては職員二人で介助を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定期的に理容師に来て頂き、本人の希望に沿いながらカットしてもらっている。また、毎朝身だしなみを整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(茶碗拭き、野菜切り、洗濯、掃除など)や買い物、花へ水遣りなど個人が活躍し楽しみながら行える場面を提供している。ドライブや歌など、楽しく変化のある生活を送れるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時、自分の財布を持って行く方がいる。	○	買い物の際、入居者に支払いをお願いするが、嫌がることが多く、職員が会計を済ませている。支払いやすいよう、お金を手渡すなど工夫をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物(週4回)、散歩、ドライブのほか、一人ひとりの思いや希望に応じた外出支援に努め、入居者の希望を優先し対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特定の場所の希望はないが、気分転換のため外に出たいという希望があり、ドライブなどに出掛けている。	○	入居者から行ってみたい場所を会話などの中から自然に聞き出す努力や話題づくりが必要。

(事業所名 グループホームほほえみの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出している。出来るだけ本人に文章を書いて頂くように心掛けている。希望があればいつでも電話を掛けれるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際は気軽で、来やすい雰囲気作りを心掛けている。ご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来られるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。生命に関わりやむおえず施行しなければならぬ時のマニュアルと家族への同意書がある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営理念を話し合った際にも希望を尊重したケアの実現について職員間で話し合っており、日中鍵をかけることの弊害について共通認識をもっている。7:15～21:00までは、開放している。7:15～9:15までと、18:00～21:00までは玄関にアラームを使用している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が利用者を見やすい位置にして、入居者の様子を把握するように努めている。また落ち着かない入居者がいる場合は職員間で確認している。夜間は利用者の状態に合わせてこまめに巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことはなく、入居者の状況変化によっては注意を促していくなど、ケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを含め、事故が起こった際には速やかに事故報告書を作成し、職員間で情報を共有して対応策を話し合っている。家族に報告が必要な事故については、別に報告書を作成し、説明を行っている。	○	早急な対応が必要な事故については、当日の勤務者で話し合うようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人職員を中心に緊急時の対応の講習を受けるなど、勉強する機会を持つようにしている。	○	新人職員が採用されたこともあり、近いうちに応急手当の講習をする予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の場を利用して、地域の方、行政、家族と災害対策について意見交換をし、協力を得られるような働きかけをしている。避難訓練も行っており、地域の方にも参加していただいた。	○	災害時に備えての備蓄など今後検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所申込時に予測されるリスクについて説明するほか、入所後の起こりうるリスクについても説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調の変化・異変があれば、リーダーに報告し、リーダーから看護師・Drに報告し指示を仰ぐようにしている。しかし、リーダーへの報告がされず情報の共有が図られていない時もある。	○	職員の中にはリーダーへの相談、報告をせず自己判断で行動してしまう者もあり、職員の目の届く場所に「入居者の体調に変化・異変があった時は速やかにリーダーへ報告する」と掲示し徹底を図る。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前は職員が薬の個数等の確認を行い、利用者一人ひとりに手渡し、内服するところまで確認している。又、利用者がどのような薬を飲んでいるのか情報を共有している。	○	薬剤提供書がクリニックから発行されているが職員が全てを把握しきれていない。こまめに目を通すようにして覚えていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に週3回玄米粥を取り入れたり、水分を多めに摂取してもらうように心掛けている。排便困難な方には腹部マッサージをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔洗浄の声かけを行い、仕上げが必要な方には介助を行っている。就寝前は義歯を回収、洗浄し清潔を保つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回チェック表に記録し、摂取状況を把握している。定期的に法人所属の栄養士から献立立案の指導、アドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは作成し、いつでも確認できる場所に設置している。流行の情報・時期に応じて同法人内の部署より資料を提供してもらい、職員間でも確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士の指導を仰ぎながら衛生管理に努めており、職員で統一するよう取り決めがある。また残った食材はすぐに使ったり、調理したものは残さずその日のうちに処理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたプランターやベンチを置いたり、季節ごとに明るい雰囲気の玄関になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファや畳スペースを配置するほか、玄関先には外気欲が出来るよう椅子を置いている。ホーム内の清潔を保ち、テレビの音量にも気をつけて、ゆったりと居心地良い時間を過ごせるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチやソファで仲の良い入居者同士でくつろいだり、歌集を見やすい場所に置き、いつでも歌えるような環境をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味で集めたこけし、好きな人形、写真、自分の描いた絵など、それぞれ思い思いに部屋に配置して、快適に住まいをしている。なお、パンフレットに、馴染みのあるものを自由に持ち込み出来るよう旨明記している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や気付いた時に換気を行い外気を温度差がないよう努めている。トイレは常に換気扇や消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハンディトイレの入り口の段差をダンボールとガムテープを使用し、なだらかにした。自室で洗濯物が干せるようパイプハンガーを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜になると鏡に、覗いている人が映っているという幻覚をもつ入居者に対し、鏡を布で覆い安心して休んでいただけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外にベンチを設置し入居者が休んだり、ひなたぼっこができるような工夫をしている。畑のスペースを確保し、水やり、収穫を楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)